

特定非営利活動法人石西礁湖サンゴ礁基金の活動  
—まとめと今後の課題—

1 NPO 法人設立の経過

平成 25 年 1 月 31 日 第 16 回協議会で、旧石西礁湖サンゴ礁基金（運営委員会）の事業を引き継ぐ NPO 法人を設立することを承認  
3 月 7 日 沖縄県に認証申請  
5 月 10 日 認証  
5 月 21 日 設立登記、法人成立

2 NPO 法人設立の効果

（設立にあたり利点と考えたもの＝第 16 回協議会議案＝の検討）

(1) 社会的な認知

全般的な判断をする材料はないが、公開されている情報を見て、通販会社からの協力の申し出（会報に記事掲載、協力金支払）という例があった。

(2) 法人格の取得による活動の拡大

法人格があったためだけとは言えないかもしれないが、補助金、民間助成金を受けられた。

(3) 会員制による活動の安定性の確保

これまでの寄付者が会員となってくださり、継続的な支援が期待できる。会員の拡大は今後の課題

(4) 認定 NPO 法人（有利な税制適用）化の前提

今のところ要件を満たしていない

○このほか、協議会メンバー以外の活動参加者が出てきたことは、大きな効果と言える。

3 平成 25・26 年度事業のまとめと検討

（25 年度事業については、基金 HP「NPO 法人について」のページの「事業報告・決算報告」を参照してください。 <http://www.strata.jp/sangokikin/about.html> ）

(1) 農地からの赤土流出対策

旧石西礁湖サンゴ礁基金の活動に続き、サトウキビの株出し栽培推進の取組を行った 25～26 年度は、特に地力の弱い土地での株出しの効果を上げる堆肥支援（22～24 年度は作業負担を軽減する株管理機作業料支援）

このほか 26 年度は、各種マルチの試行、雨水の地下浸透を促進するサブソイラー作業（地中に形成される水を通さない硬い層を破壊する）の支援を行っている。

〔検討〕

株出し栽培推進事業の規模は、各年度とも小さい。株管理機作業料支援は各年 10ha 余り、堆肥支援はそれ以下だが、サトウキビ栽培面積は 2,000ha、株出し面積は 300～400ha である。

それでも、近年、夏植からの株出しは困難とされて来たのに対し、それができるとを  
実証できたことの意義はあると考えられる。また、株出しは増産に結びつき農家経営上  
有利なため、行政機関等で推奨されて株出し栽培は拡大しており、その呼び水的な役割  
は果たせたと考える（株出しが赤土対策となることは、まだ広報不足）。

今後、さらに株出しを拡大するための戦略練り直しが必要である。

その他の赤土流出対策は、経営にプラスとなるとは限らないため、農家のインセンティ  
ブがあまり期待できず。行政施策を含め支援策の拡大が必要である。

また、サンゴ礁基金として、赤土対策全体のどの部分を担うのかを考える必要がある。

## (2) オニヒトデ対策

ダイビング団体との共同事業（助成）として実施した（旧基金の活動引継ぎ）。

〔検討〕

行政からの委託、助成も行われているが、その対象となりにくいものについて実施する  
ことの意味はあると考えている。

## (3) 広報

みなとまつり、石垣島まつりでの広報活動

Facebook ページ開設

〔検討〕

イベントでの広報の内容については、さらに検討が必要である。Facebook ページも継続  
して投稿できるには至っていない。

## (4) 環境教育

高校生、小学生、修学旅行生を対象に、赤土等のサンゴ礁への影響と対策等について  
行っている。

〔検討〕

事業自体重要であるとともに、活動への参加者を増やせる事業と考えている。

## 4 今後の課題

- ・新たなプロジェクトの立案、特に、実効性ある陸域対策や参加型の事業  
プロジェクトが立案されれば、そのための資金確保は可能と考えている。助成金、クラ  
ウドファンディング、企業からの支援など  
(協議会メンバー提案プロジェクトは、個人委員の多くは基金正会員でもあるので、基  
金名で事業実施ができると考えられる。)
- ・会員、寄付の拡大、企業への支援要請  
このほか、会員向けの情報提供の充実
- ・専任スタッフ（中期的課題）  
継続的な活動を行うためには、ボランティアだけではできない（特に若い人たち）。